

令和3年度
交通安全指導者養成講座運営支援業務
事業報告書



内閣府

令和4年2月

内閣府政策統括官(政策調整担当)

目次

1. 講座概要	1
2. 日程表	2
3. 講義概要	4
●開講式・主催者挨拶	4
西村 真弓(内閣府 政策統括官(政策調整担当)付交通安全啓発担当 参事官補佐)	
●講義「交通安全指導における効果的な話し方について」	6
藤原 徳子(株式会社ビジネスファーム 代表取締役)	
●事例発表	
「イベントを活用した交通安全教育について～安全運転コンテストの開催～」	15
沼田市役所 総務部地域安全課交通防犯係	
●講義「内閣府講義」	17
西村 真弓(内閣府 政策統括官(政策調整担当)付交通安全啓発担当 参事官補佐)	
●講義「交通安全教育デモンストレーション」	28
警視庁 交通部交通総務課 交通安全教育指導係	
●講義「子供の交通安全教育について」	31
山口 直範(大阪国際大学 人間科学部人間健康科学科 教授)	
●講義「いきいき運転講座」	42
池田 佳代(株式会社コンセプトン 代表取締役)	
●グループ討議結果発表	49
●講義「自転車の安全利用のために」	58
彦坂 誠(一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 次長)	
●閉講式・主催者挨拶	68
西村 真弓(内閣府 政策統括官(政策調整担当)付交通安全啓発担当 参事官補佐)	
4. アンケート集計結果	69

1. 講座概要

◆目的

本事業は、地域住民の交通安全意識の向上、交通安全思想の普及・浸透及び交通事故防止のための街頭活動、交通安全教育等を行っている交通指導員(シルバーリーダーを含む。)及びこれら交通指導員を指導育成する立場にある者(以下「交通指導員等」という。)に対し、交通安全教育に関する基礎的理論及びその実践的手法に関する知識・技能を習得させ、指導的役割を担う者を養成することにより、その効果的な活動を促進し、安全で快適な交通社会を実現することを目的として実施する。

◆期間：令和3年12月6日(月)～8日(水)

◆会場

アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区九段北4-2-25)

《アクセス》

- ・JR中央線(各駅停車) 市ヶ谷駅
- ・地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅(1またはA1出口)
- ・地下鉄新宿線 市ヶ谷駅(A1またはA4出口)

◆受講者

【交通指導員】

都道府県又は市区町村の長等から委嘱を受け、交通安全を目的として街頭活動、交通安全教育、広報啓発活動に従事している交通ボランティア(高齢者交通ボランティアであるシルバーリーダーを含む。)

【交通指導員を指導育成する立場にある者】

交通指導員の指導者及び都道府県又は市区町村の交通安全対策主管課の職員

◆受講者数：96名

◆配布資料

No	資料名	使用日
1	講座のしおり	全日
2	Zoom使用マニュアル	全日
3	配付資料(ホチキス止め冊子)	全日
4	「いきいき運転講座」アンケート用紙	2日目
5	アンケート用紙(兼 講師への質問用紙)	全日
6	グループ討議関連資料	2・3日目
6-1	①メモ用紙(1頁)	
6-2	②討議結果記入用紙(1頁)	

2. 日程表

【1日目／12月6日(月)】

時間	プログラム
12:30～13:00	受付
13:00～13:10	オリエンテーション
13:10～13:20	開講式・主催者挨拶 内閣府 政策統括官(政策調整担当)付交通安全啓発担当 参事官補佐 西村 真弓
13:20～15:10	講義①「交通安全指導における効果的な話し方について」 株式会社ビジネスファーム 代表取締役 藤原 徳子
15:10～15:20	休憩
15:20～15:35	事例発表「イベントを活用した交通安全教育について ～安全運転コンテストの開催～」 沼田市役所 総務部地域安全課交通防犯係
15:35～16:15	講義②「内閣府講義」 内閣府 政策統括官(政策調整担当)付交通安全啓発担当 参事官補佐 西村 真弓
16:15～17:00	グループ討議準備・確認
17:00	解散

* 敬称略

【2日目／12月7日(火)】

時間	プログラム
09:00～09:20	受付
09:20～11:20	グループ討議
11:20～11:40	討議結果とりまとめ
11:40～12:40	休憩
12:40～13:40	講義③「交通安全教育デモンストレーション」 警視庁 交通部交通総務課 交通安全教育指導係
13:40～13:50	休憩
13:50～15:00	講義④「子供の交通安全教育について」 大阪国際大学 人間科学部人間健康科学科 教授 山口 直範
15:00～15:10	休憩
15:10～17:00	講義⑤「いきいき運転講座」 株式会社コンセプトン 代表取締役 池田 佳代
17:00	解散

* 敬称略

【3日目／12月8日(水)】

時間	プログラム
09:00～09:20	受付
09:20～10:20	グループ討議結果発表・質疑応答
10:20～10:30	休憩
10:30～11:40	講義⑥「自転車の安全利用のために」 一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 次長 彦坂 誠
11:40～11:45	休憩
11:45～11:55	閉講式・主催者挨拶 内閣府 政策統括官(政策調整担当)付交通安全啓発担当 参事官補佐 西村 真弓
閉講式終了後	事務連絡

* 敬称略

3. 講義概要

●開講式・主催者挨拶／12月6日(月)13:10～13:20

西村 真弓

(内閣府 政策統括官(政策調整担当)付
交通安全啓発担当 参事官補佐)



ただいま御紹介いただきました、内閣府交通安全啓発担当の西村と申します。

「令和3年度交通安全指導者養成講座」の開講に当たり、一言御挨拶申し上げます。

受講者の皆様には、お忙しい中、御参加いただき誠にありがとうございます。また、平素から交通安全対策に深い御理解と多大なる御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本日から3日間にわたり行います本講座は、日頃交通事故防止のための街頭活動や交通安全教育に従事されている方、また、今後これらの分野において指導員になられる方を対象に、内閣府の事業として毎年実施しているものです。

例年であれば、受講者の皆様に会場にお越しいただき、対面により開催しておりましたところ、新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度の講座は、オンライン配信により開講することといたしました。

さて、昨年中の交通事故情勢についてですが、皆様方の御協力と御尽力の下、各種交通安全対策を推進した結果、24時間以内の死者数は全国で2,839人となり、現行の交通事故統計となった昭和23年以降で最も少なく、過去最多であった昭和45年の1万6,765人と比較して、約6分の1にまで減少いたしました。

これは、皆様方の日々の献身的な街頭活動や地道な啓発活動の賜物であり、その御尽力に対しまして、重ねて御礼を申し上げます。

しかしながら、今なお多くの尊い命が交通事故で失われていることに変わりはなく、交通事故防止は、依然として国を挙げて取り組むべき重要な課題であると認識しております。

特に、一昨年は、東京都豊島区において高齢運転者による親子の交通死亡事故、滋賀県大津市において園児の交通死亡事故が相次いで発生し、さらに、本年6月28日には、千葉県八街市において、飲酒運転のトラックが小学生の列に衝突し、5人の児童が死傷する交通事故が発生するなど、未だに子供が犠牲となる痛ましい事故が後を絶ちません。

交通事故のため悲しくつらい思いをする方が一人でもなくなるよう、様々な交通安全対策を講じておりますが、新型コロナウイルス感染症により、各種イベントの制限やソーシャルディスタンスの確保など、交通安全活動にも多大な影響を及ぼしているところです。

今後の新型コロナウイルス感染症の状況を見通すことは困難なことではありますが、コロナ禍が及ぼす交通行動の変化や交通環境の現状を注視しつつ、ソーシャルメディアや先端技術の一層の活用など、創意工夫を凝らした活動を推進していきたいと考えております。

交通安全教育というものは、生涯教育であるとも言われており、幼児から高齢者に至るまで、各年齢層や運転状況に応じた様々な内容や手法により行うことが重要となります。

本講座は、子供や自転車の交通事故防止講義や交通安全教育デモンストレーションなど、交通安全指導の基礎的理論や実践的手法に関する知識・技能を身に付けていただけるようプログラムを組んでおります。受講者の皆様には、どうか問題意識を持って一つでも多くのことを吸収され、今後の交通安全活動に活かすべく、本講座に臨んでいただきたいと思っております。また、テーマ別のグループ討議などでは、オンラインを通じてとなりますが、ぜひ活発な意見交換もお願いいたします。

最後になりますが、皆様方が、この3日間の講座で所期の成果を挙げられ、有意義なものとなりますことを祈念いたしまして、私の開講の挨拶とさせていただきます。

●講義「交通安全指導における効果的な話し方について」／12月6日(月)13:20～15:10
藤原 徳子
(株式会社ビジネスファーム 代表取締役)

配付資料:「交通安全指導における効果的な話し方について」



はじめに

なぜ、交通安全指導者に効果的な話し方のスキルが必要なのか。

- ◎道路交通法の知識や情報をもっていたとしても、それらが講習会に参加する受講者に対してその意義が伝わらなければ、受講者は交通安全ということを意識して生活しない。
- ◎交通安全指導者は、地域の受講者に対して、行動変容(行動に移してもらいたい)のきっかけづくりの立場にあり、行動変容につながる影響力を持つためには、効果的な話し方のスキルを持つ必要がある。

オリエンテーション【交通安全指導者の使命】

1. 交通安全指導者は「規範を守る道徳的な人間としてのお手本」

(倫理観が高く、道徳観を持つこと。その姿勢が地域の住民に見られているという意識を常に持つこと)

(1) 交通安全指導の「目的」

- ・尊い命を守り、常に安心安全な街づくりのお手本を示すこと。

(2) 交通安全指導の「目標」

- ・交通ルール、マナーを守る態度を育成すること。
- ・安全に道路を通行するための知識、技術、技能を身につけること。

2. 交通安全指導を通じて、地域住民の倫理観を高める

「倫理観の高い人は交通ルールを守る」

- ・世の中にはいろいろな問題を起こす人間がいる。なぜ問題を起こすのか、その要因とは。

1) 知識不足

2) 情報不足

3) 想像力の欠如 ⇒ 問題を起こしたときの影響を想像できない。

これからの社会で取り上げられる問題と思われる。

※交通安全指導者の経験の浅さによる不安は、知識と情報の習得と、どれだけの場数を踏むかによって解消できる。

3. 交通安全指導を行う上での心構え

- (1) 聴いてもらうという姿勢が大切

- (2) 自分を磨くこと → 教えることで身につく
- (3) 話し方の3原則(明朗・正確・肯定表現)を守る
- (4) 目的と目標を達成するために、熱意を持ち、「自信」ある態度で指導に当たる
- (5) 指導者の「タスク(課題)」を理解する
 - ・タスクとは到達すべきゴール。何を目的としているか。
 - ※知識学習でとどめたいのか、行動変容を期待するのかで指導技術は異なってくる。
 - ・タスクを自力で完遂するための「能力」と「意欲」をどの程度持っているか。

4. 求められる能力

「タスクを自力で完遂するためには、『能力』と『意欲』が必要」

- ・「能力」は「知識・経験・技能」、「意欲」は、「自信・関心・動機の強さ」と定義している。
- ・「意欲」は自信によって喚起される。

- ①知識・技能・経験を積むこと
- ②難易度が低い、分量が少ないタスクでも、自力で完成、完遂させること
(人の手を借りて完成、完遂したものに真の「自信」はつかない。)

(1) 分析力と観察力

- ①地域住民(幼児・学童・生徒・保護者・年配者等)の話をよく聴き、言わんとすることを理解する。
- ②話の要点を正確につかみ、まとめられる。

(2) 身体的 … 健康、視力、聴力、音声明瞭(マスク着用時やオンライン開催時には特に配慮)

(3) 人柄 … 人間的魅力(指導を受ける方々への影響力)

- ①時間と約束を守ること
- ②誠実・明朗・公平であること
- ③うそやごまかしがしないこと

【効果的に話すための準備】

1. 心温まる笑顔で「相手の心に残る指導」を！

- ・上段は、口角が上がっている、「笑顔」の状態。
※「笑顔」と「笑い」は違うので注意が必要。
- ・中段は、口が真一文字にしている、「真顔」の状態。
- ・下段は、口角が下がっている、暗い印象を与える。
- ・音調表現に心を配る。
※マスク着用時は、目だけでしか笑顔を伝えることができないが、口角を上げることで笑顔を伝えられる。
- ・目と口の両方の筋肉を意識すること。

表情 (眼輪筋と口輪筋)		目		
		①	②	③
口	☺	① ☺	② ☹	③ ☺
	—	④ —	⑤ —	⑥ —
	☹	⑦ ☹	⑧ ☹	⑨ ☹

2. 話すときの心得として

(1) 幼児・学童に対して

① 分別のある賢い子どもを育てるために

- ・幼児語を多用しない。一人の人格のある「人」としてみる。
- ・音調表現として柔らかくするが、幼児語で話さず、丁寧な言葉で接する。
- ・社会道徳を身に着けさせる立場の指導者としては、学童や若者に対しても流行語や慣用語ではなく、正しい日本語を用いるのが適切。

② 質問話法の活用

- ・「…は、あるかな？(ありますか?)」と、様々なことを問いかける。
- ※全体の構成(時間配分)を考慮して、それぞれのポイントで使用する。

(2) 学生・高齢者に対して

① 「命令形」より「依頼形」

- ・「～してください」ではなく、「～していただけますか」という言い方にする。

② 相手の言葉を正す必要はない

- ・対話時は、相手の使った言葉を用いて復唱する。
- ※丁寧にするつもりで言葉を置き換えると、相手は正されているような感触を覚える。

③ 親しみの勘違いをしない

- ・相互関係の一線を越えないために親しみの差をつけない。みな平等に丁寧な言葉で接する。

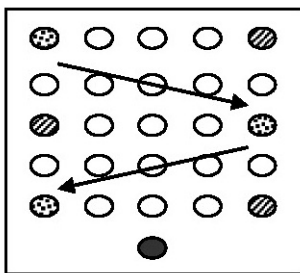
④ 「人は、ものの言い方に影響される」ので、話し方に『情』を込める

- ・同じ内容でも、口調、音調表現によって印象が大きく異なる。

(3) 基本動作としての視点法

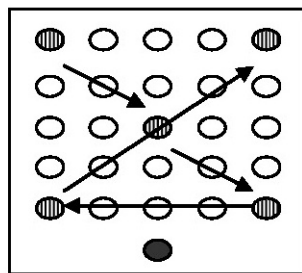
会場の大きさや人数によって、使い分ける。

① 3点法



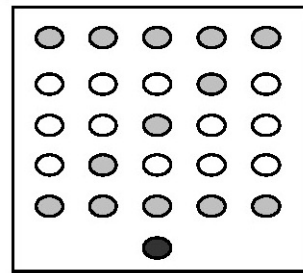
受講者数
少人数から30名位

② 5点法



受講者数
30名～80名位

③ Z視点法



受講者数
少人数から多数

- ・視線は相手にとっての認知行動。受講者の安心感を得られる。
- ・Z視点法を大会場で活用する場合は小刻みにZを描くようにする。

3. 自分の印象を管理する

◎好意の統計(アルバート・メラビアン)

Total linking (100%)	=	Facial linking (55%)	+	Vocal liking (38%)	+	Verbal liking (7%)
		・笑顔や表情 ・身だしなみ ・所作 等		・声の調子 ・話し方 等		・言葉 ・話の内容 等

- ・人の印象は目に入ってきた印象の100%のうち55%が笑顔や表情、身だしなみ、所作で決まる。
- ・残りの45%は耳から入ってきた印象で決まる。さらに45%のうち、38%は声の調子や話し方(非言語コミュニケーション)。
- ・残り7%はその人が使っている言葉そのもの(言語コミュニケーション)。
- ・これは、言語と非言語が不一致のときに、人は何を信じるかであるから、言語と非言語が一致しているときは、この統計は不問である。
- ※指導者は、言語と非言語を一致させることに努める。

4. 話しているときの基本動作(留意点)

- ・挨拶の仕方 … 語先後礼(先に言葉を発し、後から動作をつける)
- ・手の位置 … 後ろ手は避ける(高圧・威圧感を与える)
ポケットに手を入れない(落ち着きがない、あがっている印象)
手のひらを意図的に見せたほうがよい
- ・立ち方 … 男性は肩幅ぐらいに足を開く(力強さの演出)
女性は握り拳が1つ入る程度、足を開く(安心感を与える。安定感)
前後に足をずらす(ソフトな感じを与える)
- ・立ち位置 … 演壇のところ。あるいは、聞き手の間を歩き、立ち止まる(親近感)

5. 美しい所作

目線を合わせることは相手を認知している証し

- ・相手の目を見る … 眼球を見ることなく、目頭と目頭の間を見ろということ。優しい視線を向けて、相手が威圧感を受けないよう時々視線をずらしてあげる。
視線をずらすときのポイントは、相手の眉から上は見ない、胸の位置から下を見ない、両肩の外を見ないこと。
⇒ 中央側を見るということは相手を尊重している、認知している証拠。

聞き方のポイント(傾聴術と傾聴技法)

- ・うなづく … 相手の話をきちんと聞いているという合図になる。
⇒ 通常うなづく、上体を倒して行う、首を小刻みに何度もふる、の3種を場面によって使い分ける。

・相づちを打つ … 声を伴ったうなずき。

・聴いているから、「メモをとる」「質問する」「復唱する」が可能となる。

※復唱は、おうむ返しとは異なる。相手の言葉を理解している証として自分の言葉に置き換えて話す。

・相手の言葉をそのまま言うのはおうむ返し。語尾を上げる、または「～なんですね」の「ね」をつけることで、相手の言葉を受け止めている印象になる。

※「～ですか」と返すと、相手の意見を受け止めていないという印象になるので、疑問形で返さないようにする。

口の体操

・マスク着用時でも、口が動かせる(マスク地が吸い付かない)ように工夫をする。

・講習を行う前に、口の体操として「あ・い・う・え・お」を意識して、メリハリよく3回～5回程度声に出す。繰り返し発声することで、口角が緩まる。

・濁音と鼻濁音の使い分けをきちんとすると、きれいな話し方ができる。

6. 話す力 “メッセージの伝え方”

- (1) 最も言いたいこと(主題)を先に述べる … 結論から話すことで、聞き手は聞く耳を持つこと(心構え)ができる。話の内容を理解しやすい。
- (2) 共通言語を用いる … 相手に伝わる言葉を使わなければ、相手の納得は得られない。
- (3) 筋道を立てて話す(ナンバリング方式) … 「まず、次に、最後に、以上、」あるいは、「今日は3つのことを学んでいただきます」といったナンバリング形式で話す。
- (4) 短文で話す … 短文で言い切ったほうが記憶に残る。

7. よい点を褒め(認め)ながら指導する

・コミュニケーションの基盤が、感情的な人、命令口調な人、人に依存するような人には、「事実」で話を進める。「事実」は誰も非難、否定することができない。

・全人格を褒めるのではなく、具体的にどこがよかったのかを褒める(条件付き肯定)。
否定の際もどこが危険だったかを具体的に指摘する(条件付き否定。)

・「拡張自我」を褒めるのも1つの手段。

・「事実」を先に述べて、それに対しての思いを指導者として語ることが大事。

【交通安全指導等の事前準備】

1. 話材(お話をするときの母体となるもの)を探す

- (1) 話材を見つける … 人前で話ができない大きな原因は、経験がない、「話材」がないから。

①自分の体験が一番

②他人の話や、書かれた物でも可 … 身近な地域の事故などを引用して話す。

- (2) 話材を集めるための「情報のアンテナ」を立てる
 - ・知的好奇心をもって物事を見るようにし、私見を持つこと。
- (3) 聞き手が興味を持たないのはどういう話か、どういう話に興味を持つかを理解する

2. 聞き手の興味を引きつける

興味の持てない話をどのように伝えるか

- (1) 抽象的にならないよう、講義の組み立て方を学び、受講者が理解できる例話を用いる
- (2) 笑顔で穏やかな口調で話す(笑いを取る必要はない)
- (3) 専門用語ではなく、平易な言葉を用いる
- (4) クイズや問いかけなど、受講者を誘い込む工夫をして、話し手中心にならないようにする
- (5) 暗い内容でも、笑顔で今後の安全に向けた建設的な話をする

【講義の組み立て方】

- ・「なぜ、大切なのか」… 例) 自転車走行ルールがなぜ、大切なのか。
- ・「なぜ、そうなるのか」… 例) 事故が起こる可能性があるから。
- ・「では、どうするのか」… 例) 自転車走行ルールを学ぶ。

1. 例話の活用

- ・話の重要な裏づけとして説得力がある。
- ※規制の説明などでは、身近な例を用いることで高圧的な印象を和らげる効果もある。
- ・実話を話すのが一番効果的だが、指導内容から逸脱しなければ、また、趣旨が伝われば創作してもよい。

2. コメントの仕方と留意点

- ・サンドイッチ法で批評する。
 - ①よい点(事実をひろって)を褒める
 - ②改善点、問題点を注意する
 - ③励ます
- ・留意点
 - ①褒め過ぎない(自意識過剰になり、次へのプレッシャーとなる)
 - ②コメントは短めに
 - ③全員同じくらいの時間で
 - ④温かい気持ちを忘れない

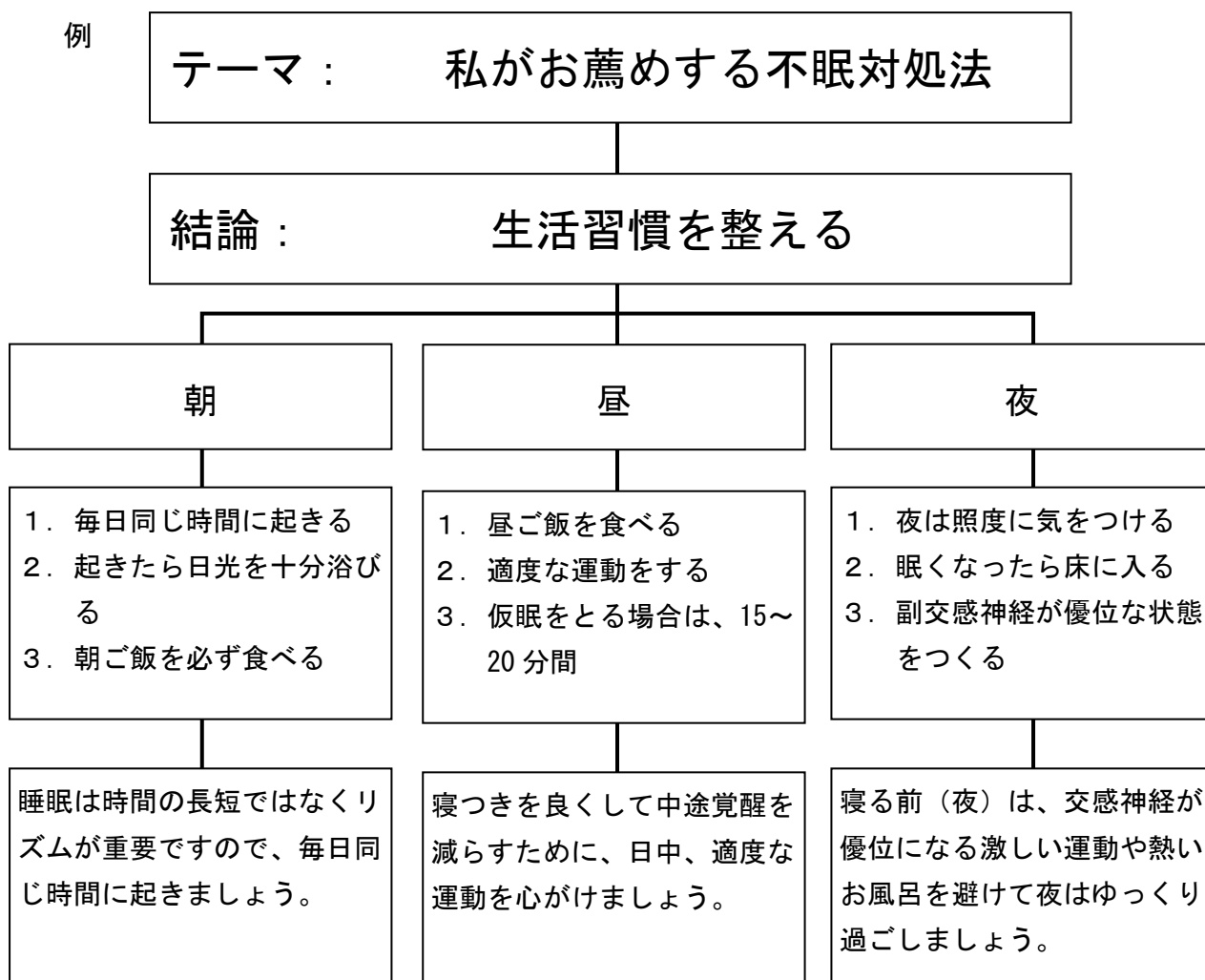
3. 思考整理術(フレームワーク法)をマスターする

ロジックツリーを用いたスピーチトレーニング

- ・思考をワークシートに書き出して、番号順(①～⑯)に話すと論理的な話し方になる。

- ・「結論」は最初と最後に話す。
 - ・「属性」を3つにしぼる。欲張らない。
 - ・「私見」は属性に対する総括とする。
- ※一度ロジックツリーを作成しておけば、同じ講義を別の機会にする際にも使用できる。

例



【まとめ】

1. 講話準備を行う

- (1) 【交通安全講習、イベント等(状況・場面)】での目標を明確にする
- (2) 参加者に何を伝えたいのかの「テーマ」を必ず設定する。欲張らない
- (3) テーマの主題を30文字以内でまとめ、話の展開を考える
- (4) 主題を裏づける内容を、ナンバリング方式でまとめる
- (5) 生きた話をするための仕上げは『表現力』である

2. 実践の場数を踏む

- ・講習できる場を意図的に見つけて、効果的な話し方のスキルを磨く。
- ※職場、家族、友人間でもよい。

===== 質問・回答 =====

【質問】

今回多くの参加者の話し方を拝見しましたが、普段指導をする立場であるからなのか高圧的に話される方が多いと感じました。高圧的にならない印象や話し方のコツなどがあれば教えていただきたいです。

【回答】

指導者の皆様は、「交通法規」を指導なさっていることから、高圧的な印象を与えてしまう場合もあると思います。想像してみると、「強面で笑顔がなかった」、「語気が強く、命令口調だった」など、高圧的に感じたのは、どのような点なのかを今一度考えてみると解決策は見つかると思います。(表情と音調表現が一番の要因かもしれません。)

聴衆者とともに「交通ルールを守り、命を大切にしていきましょう」という思いで、優しい表情と口調でご講義いただければと思います。

【質問】

- ・条件付否定でどう危険なのか伝えたあとに、正しい行動を伝えた方が良いのか。
- ・拡張自我の説明がメモが間に合わなかったので知りたいです。

【回答】

- ・おっしゃる通りです。危険行為を先に指摘してから、正しい行動をお伝えするのは良いことですね。ただ、はじめに認知行動を取る(良い点を褒める)と、より効果的だと考えます。
- ・内面部分ではないところ、つまり外面や身につけているもの、親にとっての拡張自我は、子どもというように、拡張自我を褒められても、自分自身を褒められ認知されたと思い、嬉しいものです。

【質問】

先生がお話しされた中で、例話を用いるのに、実話以外の事でも良いという事をおっしゃっていましたが、①直接経験していなくてもよい。②世間でありそうな話を創作する。そして、3つ目をなんとおっしゃっていたのか、教えて頂きたいです。

【回答】

3つ目は、「人から言い伝えられてきた話を引用する」です。

【質問】

私はていねいな言葉づかいよりも、子供たちと友達のような話し方が効果的だと思っていました。親子仲にも礼儀ありくらいで考えておけばよいでしょうか。

【回答】

指導者と子供たちは、お友達ではありませんので、「礼儀」を大切にしたいですね。経験から申し上げ

げると、子供達と接する時、ていねいな言葉を選び、口調を柔らかくして、優しく語り掛けると、子供達は「一人の人間として認めてくれている」と感じるのか、話を真剣に聞いてくれます。

【質問】

特に幼児向け教室において、最近は発達に問題のある子や個性的な子が多くいる。保育士の先生方のフォローもあるが、「1対1」では集中して聴くことや理解することができる子も、「1対集団」だと集中できなかつたり、発言し続けて場を乱してしまつたりすることがある。私自身保育士資格があり、発達段階や発達障害についてある程度の知識や経験はあるつもりだが、「交通指導員」の立場で教室を行う際には、「全員に対して短時間でテーマをしっかりと伝える」ことを目的として「1対集団」で話す。命を守るためには、どのような子にも交通安全知識は必要であり、それぞれに合った方法で身につけてもらいたいと思っている。結局その場ではある程度の発言を無視して進行を重視し、「1対集団」での講義や実技に特化してしまい、細かいフォローやそれぞれに合った教え方は先生方にお任せして退室している状況である。

どのような発達の子にも、短時間で目的に合ったテーマを分かりやすく伝え、興味を持って集中し理解してもらうには、どのように話せばよいのか、どのような手法があるのか、教えていただきたい。

【回答】

・幼児に限らず、発達に問題がある人が受講している場合は、先生が普段からなさっているように「フォロー体制」が重要だと思います。つまり、講習先の先生方の助けがなければ、講習会は成り立たないと思います。従って、これまで先生が進めてきた実施方法でよろしいかと思ひます。

・「どのような発達の子にも」という点ですが、講習先の先生方に調査をして、子供達が何に興味と関心を示しているのかを聞いて、「紙芝居」、「ゲーム」、「クイズ」などを活用して、ご指導いただければと思ひます。

【質問】

思考整理術とロジカルトークについて、ワーク「自転車の安全利用…」と P12 参考「幼児の交通…指導内容」「高齢者の交通…啓発する」などの交通安全教室にかかる模範例の例示は有りませんか。

【回答】

誠に申し訳ございません。交通法規に関わる内容は、指導者の皆様がプロですので、先生方ご自身で考え、講話を作成していただければと思ひます。ロジックツリー図を完成させたら、先生方の身近にいらっしゃる「交通法規にあまり詳しくない人」に話してみても、理解できるようでしたら、先生の講話内容の完成度は高いということになります。是非、フレームワークで練習していただければと思ひます。

●事例発表「イベントを活用した交通安全教育について～安全運転コンテストの開催～」

／12月6日(月)15:20～15:35

沼田市役所 総務部地域安全課交通防犯係

配布資料:「イベントを活用した交通安全教育について
～安全運転コンテストの開催～」



沼田市では、本年2月の1か月間、市内在住・在勤で日常的に自動車を運転する方を対象に、あいおいニッセイ同和損保株式会社より提案のあったテレマティクス技術を応用した安全運転コンテストを実施した。

【開催目的】

- ・先進技術を使って参加者自身の運転を客観的かつ分かりやすく診断し、安全運転に役立て交通安全意識の向上につなげる。
- ・参加者の危険な運転挙動のデータ収集を行い、交通安全政策に活用する。

【概要】

- ①参加者には、テレマティクスのタグをダッシュボードにセットして走行してもらう。
- ②走行時の挙動をタグが記録し、ブルートゥース通信によって、参加者のスマートフォンに転送される。
- ③専用アプリにより、運転状況を診断、採点する。
- ④参加者の運転挙動を集計し、順位を決定する。
- ⑤走行データにより、市内の通行量や危険箇所が分析できる。
- ⑥運転状況によってミッションをクリアするとアプリ内でバッジを付与されるなど、参加者が楽しみながら交通安全について関心を持つことができる。

※今回の募集人数は200名→参加者198名(2名についてはスマートフォンとテレマタグの連動の不具合により参加辞退)

【結果】

- ・平均走行距離 … 約544km
- ・平均走行回数 … 約75回(1日2.5回)

【分析】

参加者の運転挙動を集積し、市内地図に落とし込むことによって運転の経過を把握

- ・急加速
- ・急ブレーキ
- ・急ハンドル
- ・スマホ使用 ※非常に多い。
- ・速度超過

◎沼田市は坂が多いという特色ゆえの運転挙動が明確になった一方、市街地(平坦地)においても、急ハンドルや速度超過が見られた。

◎運転中のスマホ使用が多い。

→危険挙動を把握

・群馬県内の現在までの人身事故7,959件のうち、6割以上の5,270件が安全運転義務違反による。

※前方不注意(漫然運転・わき見)、操作不適、安全不確認など

→携帯電話使用が関わっていると推察できる。令和元年の違反点数や罰則金引き上げにもかかわらず、運転中の使用が多いのが現状

【感想】

- ・エントリー数が思った以上に多く、市民の交通安全意識の高さを感じた。
- ・参加者からは、即座に診断結果を確認できるのがよかったとの声があった。
- ・表彰式において運転挙動を反映した市内地図を参加者に示し、危険箇所や現在の市内の交通情勢について話すことができ、交通安全教育につながった。
- ・把握した市内の危険箇所については、警察への情報提供や車両広報の際の経路、ライン工事など今後の交通政策に活用したい。
- ・今回のイベントのように交通安全をより自分のこととして捉えることができ、楽しみながら交通安全の意識を高めていけるイベントなどを開催したい。